

令和元年度 第4回

五泉市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民検討委員会のまとめ

五泉市
企画政策課

開催概要

平成27年に「五泉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を策定し人口減少問題に取り組んできました。国は令和元年6月に「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」で第2期総合戦略を策定することとなりました。

五泉市でも引き続き人口減少問題に取り組んでいくため、各分野の方々からご意見・ご提案をいただき、令和2年度からの「第2次五泉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」を策定します。

日時	第4回 令和元年10月21日（月） 午前10時～11時40分
会場	五泉消防署
参加委員	13名 (産学官金労言士の各分野計20名で構成)
内容	<p>●説明</p> <p>(1) 第2次人口ビジョン・総合戦略の素案について</p> <ul style="list-style-type: none">人口ビジョンについて将来都市像について基本体系について事業とKPIについて <p>●意見交換</p> <p>「第2次人口ビジョン・総合戦略の素案についての意見・提案」</p>

意見交換

「第2次人口ビジョン・総合戦略の素案についての意見・提案」

- ・「複合施設の来訪者数」の目標を24万人とした算定根拠を教えてください。
→複合施設の来訪者数については、周辺の道の駅5か所中3か所の利用者数をもとに、推計した。
- ・「教育の充実」のところ、「将来の夢や目標を持っている生徒の割合」は、中学3年生の「全国学力・学習状況調査」を用いている。これは4月に実施している。「①特色ある教育」の指標「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある児童生徒の率」も同じ。10月の文化祭の時期には五泉市の将来像を提案する学習をしており、この時点で100%になっているはずである。調査時期は妥当か。
- ・「学童クラブ」はこども課、「寺子屋事業」は生涯学習課、この2つの事業の区別が市民にはわからないのではないかと。寺子屋事業で「…感じる」というのが親の主観であり、なんとなくの感想である。基礎学力を上げることが目的であれば、本当に学力が上がったのか、ということを検証するべき。あるいは子供たちに直接聞くべき。
- ・基準値や目標値で、例えば、出生数の基準値が244人なのに対して目標値が1,300人と大幅に増加させるように見えてしまう。目標年単年度の数値と計画期間の累計値が混在しており、わかりづらい感じがする。
- ・職場環境や給料は、人口減に直結すると考えている。この対策は、「Ⅱ産業の活力を高める」に記載されることになると思うが、地場産業の育成が中心になっている。これで本当に解決できるのか。
「新設法人を増やす」でよいのか。市の人口を増やすことを目的にするには弱い気がする。いま、勢いのある会社は、外からきている会社。地場産業も大事だが、他所からの誘致が入ってきてよいと思う。
- ・目標値が件数になっているものは、整数にするべき。小数点がつくと違和感がある。
- ・重点プロジェクトに是非、「地域学校連携事業」を入れてもらいたい。コミュニティスクール導入に関わることで、各市町村の努力義務で導入が進んでいる。特色のあるものにするべき。子どもが五泉市に誇りを持って住み続けたいと思うようになる起爆剤と考えている。
- ・「不妊治療」については、金銭面だけではなく、啓蒙活動も行ってもらいたい。悩んでいる人のすそ野は広い。